

小さな剣士

第三回

十歳の正体

作画 牧秀彦
いりえやぶら



〈前号のあらすじ〉

江戸幕府があと半世紀で終わろうとしている頃、両親を亡くした駒場一郎、清香姉弟は親代わりの井坂多門の屋敷で暮らしていた。屋敷には道場がある。以前多門が夜道で曲者の一団に襲われたときに助けた水瀬十蔵が師範で、一郎は先生と慕っていた。御前試合があり、十蔵は清香に言い寄る加納兵馬を破る。一郎は幼馴染の三太に試合では負けるが、実力を認められる。

一

御前試合を終えた日の夜、井坂家で祝いの宴が開かれた。
水瀬、さかづきをとらせるぞ」
上座に座った井坂多門は満面に笑みを浮かべている。